

孝

經

一九三六年
(昭和十一年)

碑法帖拾遺 ⑯

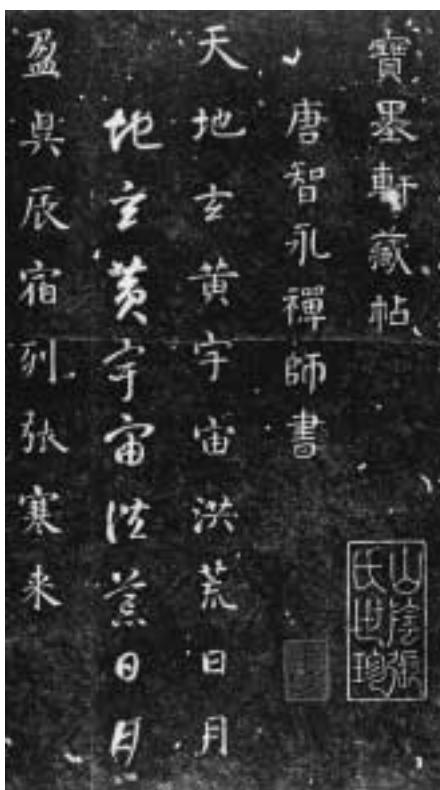
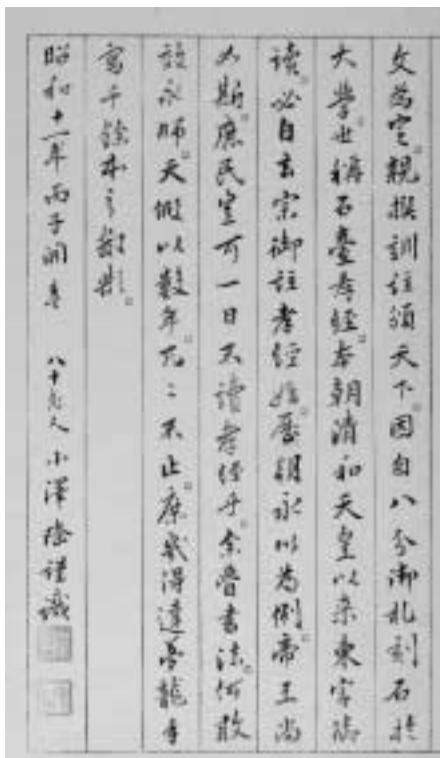
木雞

木雞室

伊藤 滋

後書き後半

智永千字文



昔、陳時代（六世紀頃）の智永禪師が『真草千字文』を八百本書して、浙東の諸寺に各一本を奉納した逸話は有名である。また後の宋時代の尹夢龍も手写した『孝經』千余本を郷人にくばり、孝の道をおしひろめたと伝えられている。智永禪師は『真草千字文』を

伝えて書の神髄を、尹夢龍は孝の道を伝えた。この『孝經』は、昭和十一年に小澤隆なる人の筆である。本文の後書き（この部分は印刷されている）によれば、読書の余暇に『孝經』を書き写するのが樂しみであり、積もり積もつて数百本になった。始めた頃は、この

書いた『孝經』を人様に配ることを意図しなかった。しかし、先人に倣い、『孝經』を広めようと考へて書き続け、数年の歳月を得て、宋の尹夢龍の千余本の数に達せんことを願うと記している。末の落款に「八十老人 小澤隆謹識」とある。書も八十余歳の老人とは

思われない筆使いである。魏晋の小楷の趣を具している。所々に行草体を取り入れている。こうした心で筆を執りたいものである。

孝經

開宗明誼章第一

卷一

仲尼居曾子侍子曰先王有至

德要道以順天下民用和睦上

下無怨汝知之乎曾子避席曰

參不敏何足以知之子曰夫孝

德之本也教之所由生也復空

吾語汝身體髮膚受之父母不

書道藝術院 平成の書(2009)



山下皓映書

山 下 皓 映

財団法人書道藝術院
常任顧問



山下皓映先生が体調を崩され、只今入院中のため、私が急遽ピンチヒッターになりました。山下皓映先生は、大阪第二師範学校時代に、川崎梅村先生や水嶋山耀先生に書を学ばれ、大阪市立菅南中学校に奉職されました。

同時に奉職しました親友、竹村ともに200名を越す書道部員の指導をしておりました。ダンディで人気の先生でした。

山下皓映先生も竹村も川崎梅村先生のご指導を受けていた最中であり、書道部の教材は非常に高度なものでした。私が中学一年の時から「曹娥碑」や「黃庭經」や「温泉銘」などの全臨を屏風にして、展覧会に出品をしたのもこのころのことです。

当時、山下先生は雅号を「笠雪」と

しておられましたが、その後に「皓映」と改名なさったのです。

山下皓映先生は名門、集英小学校をはじめ他校にも移られた後に、退職、「皓映会」を結成され27年になります。

山下皓映先生は詩吟が得意で、素晴らしいお声の持ち主です。よく本を読み、心に残った文章はメモになさいます。常に書作に心がけられ、雅があります。関西総局長として長く勤められました。

ちょうど10年前の山下皓映作品集のあいさつ文に、「人生七十古来稀なり」といわれる歳になりました。その間、よき師、よき書友にめぐまれて現在を過ごしていますが、学書は遅々として進まず、いたずらに齢を重ねてきました。むかしといまは平均寿命も異なったとはいえ、とにかく元気で書作に専念できることのよろこびを感じています。」

掲載の作品写真はこの時のもので全紙に書かれた「山雲」がとても印象的でした。中学生の頃にご指導くださった山下皓映先生の勇姿が思い浮かぶ威勢のいい作品だったからです。はやくお元気になられ、書作に専念なされることを心から望んでやみません。

(小伏小扇記)

書のひろば

理事長 恩地 春洋

名実ともに

「書の甲子園」

— 小野富次さんの夢の実現 —

辻元大雲展と同時期、大阪市立美術館では、全館を使用して、第17回国際高校生選抜書展が催された。今や全国の高校生の最高目標となった「書の甲子園」は、第1回展からの基本方針、

1、学校教育の一環として書道界の会派に関係なく、よい作品を賞揚しよう。
2、国際展として、それぞれ自国の文字で書くことも認めよう、留学生も大切にしよう。

3、出品料は無料とする。

公正な審査と共に17年、昨年は春の

選抜野球のプラカードは、地区優勝校

の書道部員が書いて行進した。小野富

次さんの夢が実現した瞬間であった。

正に「書の甲子園」という愛称が社会

に溶け込んだ選抜野球の春だった。

その後、高校生のクラブ活動の書が

テレビでも取りあげられるようになつた。パフォーマンス書道などと名付けられながらも、書が若者に好まれ、社会に浸透して、伝統文化が見直される機会になったことは間違いない。これ

も、国際高校生選抜書展の基本方針の

正しかったことを意味する。

小野富次さんの三回忌の追悼文集

「先見之明」が出た。最初から関わってきた私が題字を書かせて頂いた。財団法人として学校教育の一環としても、

伝統文化を守る書道界にとっても大きな効果を発揮した事業であると評価されてもおかしくないとと思う。

文部科学大臣賞



福岡県立青豊3年 水取由梨香

好評だった辻元大雲書展

周到な計画と準備によって第2回辻

元大雲書展が2月3日から8日まで、

東京セントラル美術館で催され、2日

の内見会、祝賀会は帝國ホテルで盛会、

会期中には、詩人吉田加南子、片山由

美子さんとのギャラリートークなども

計画され、又ビデオで熱心に書法研究

の観客もあり、好評のうちに終った。

先見之明

— 小野富次さんを偲ぶ —

61回毎日書道展の 基本方針と当番審査員

1、国立新美術館と東京都美術館の2

館体制で、全国の入選作品を東京で

展示する。

2、特別展示は、松丸東魚展

3、関西展を始め、各展の充実を計る

4、第9回国際書法交流大展開催のための積立金を開始する。

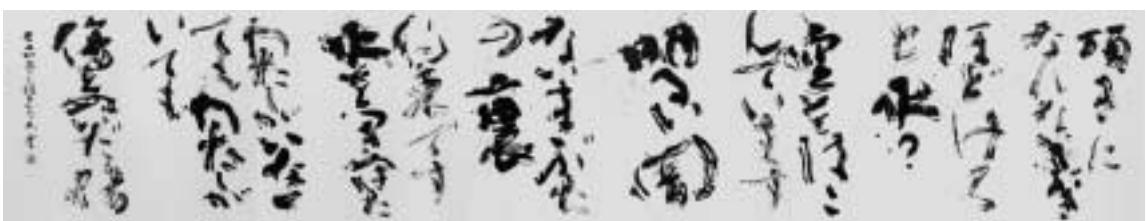
5、国際高校生選抜書展、毎日新春チャリティー展、現代の書新春展など書芸術の振興と普及に寄与する。

- ・ 主要役員（四役・運営委員、各展委員長）既報
・ 第5次改革委員会委員 辻元大雲
・ 会員賞選考委員（本院関係）
恩地春洋 西林乗宣

・ 当番審査員

- 漢字
かな
(I)下谷洋子 (II)山藤美知子
近詩 大字
刻字
(I)種谷萬城
小竹石雲 坂本素雪
小林琴水 後藤大峰
板垣洞仙

< 辻元大雲書展 より >



吉田加南子詩「さかな」より

辻元大雲書

200×1000

現代詩文書 (六)



第60回全国学生書道展併催指導者作品展（2008年）21×34cm
尾形澄神書「あの月を抱いて あの月を抱いてあるく（自詠）」
月を眺めるのが好きで、最寄りの駅から自宅までの一本道を、月を見上げながら歩くことがあります。よ

うな錯覚にとらわれることがあります。
お宝が沢山眠っています。

古典を学ぶ最終的な目標は、自分だけの用筆法を生み出すことにある—私はそう考えます。独自の用筆を見出しが出来れば、個性ある作品が書けます。その為には、臨書と倣書を繰り返すだけでは不十分です。倣書は、いわば模倣です。芸術において最も大切なのは、創造の世界に足を踏み入れること。即ち、臨書から創作へ発展させる工夫と努力が必要です。具体的にいって…ある古典で学んだ用筆を、全く違う書体に生かすことが出来たとき、

書を書くだけなら、大きな発展は望めませんし、自分なりの用筆も発見できません。異質なものの同士を調和へと導く強い意志と、統一する力を養う鍛錬を怠らないことです。それが、漢字かな混じり文を書く上で役立ってきます。

いま、本誌漢字研究課題になっている風信帖、出だしの「風」は王羲之の蘭亭序そっくりですが、二字目の「信」は顏真卿の突く線から成っています。つまり空海は、造形

は羲之をベースにしながらも、用筆は顔法を巧みに取り入れています。

何紹基にしても、趙之謙にしても、過去の偉大な先人達は皆、複数の古典を咀嚼して己の栄養として、自分の中で再構築して独自の筆法を生み出しました。

私達にもそれが出来るのです。用筆は無限に存在します。そして、古典は用筆の宝庫です。私達の回りには、お宝が沢山眠っています。

尾形澄神

初めて創造の扉を開けたことになります。金文を習って書譜を書き、書譜を学んで木簡を書き、木簡の用筆を生かして龜宝子碑を書いてみる—こういう苦労が欲しいのです。行書を学んで行

書を書くだけなら、大きな発展は望めませんし、自分なりの用筆も発見できません。異質なものの同士を調和へと導く強い意志と、統一する力を養う鍛錬を怠らないことです。

便利で簡単で早くと、私たちの身の回りは多くのものが機械化されましたが、弊害も出ています。パソコンにより漢字が書けなくなった、字を忘れたという話も耳にします。カーソルを叩いて変換するものの、どれが正しい文字か、わからない人が増えてきています。私も稀にあたりして（ヤバ）。こんなに便利な世の中ってどうなんでしょう。

そんな中でも、街なかの看板、新聞のチラシやテレビの題字など、手書きのものをまだまだ増えています。私も稀にあります。

「手で文字を書く」ことが、心を伝えるとともに脳にもいいとなれば、我々の生活に書の果たす役割は大きいはず。終わりに、6ヶ月何だかんだと書いてきましたが、「心」を忘れず書に取り組んでいきたいと思います。

漢字 (六)

大内熒軒



大内熒軒書 33×23.5cm

「和為貴」

くさん目にします。どうみても活字よりもインパクトがありますよね。「手紙は手書きのものがいい」と思っている人が多いのも事実です。

本題に戻りますが、書は“白と黒”的シンプルな世界。しかし、その中に表現された文字には、作家のさまざまなお思いが凝縮されています。最近は書も海外進出を果たし国際的になってきました。芸術院展も毎日展も60年の歴史を持ち、作品も数え切れないくらい

発表されています。この可能性を持っている書の世界は、幼児から高齢者まで関わることができるもっとも身近なものであります。先日、白扇書道会の講演会で、「書道は脳にとてもいい影響を与えている」と、神戸大学の魚住先生がおっしゃっていました。

「手で文字を書く」ことが、心を伝えるとともに脳にもいいとなれば、我々の生活に書の果たす役割は大きいはず。

終わりに、6ヶ月何だかんだと書いてきましたが、「心」を忘れず書に取り組んでいきたいと思います。

第40回 現代女流書100人展

第40回記念特別展示（花ひらかせた人々）

併催＝現代女流書新進作家展（第60回毎日書道展会員賞受賞作家・特別昇格者による）

会期＝前期展 2月5日㈬～7日㈯

〔漢字・大字書・篆刻・刻字・前衛書〕

後期展 2月8日㈰～11日㈬・祝

〔かな・近代詩文書〕

会場＝東京渋谷・東急百貨店本店
7階特設会場（100人展）

8階工芸ギャラリー（新進作家展）

主催＝毎日新聞社

後援＝毎日書道会

＜第40回記念特別展示＞

花ひらかせた人々

〈無題〉



60×29cm

△重△

香川倫子

180×93cm



「ふゆの夜や今戸八幡隅田川（久保田万太郎）」

永井幸子

137×17cm



「どこかであたらしい山がむっくり起き
あがったような…以下略（新川和江）」

129×48.5cm×2

飯高和子

〈陳去新來〉



105×106cm

最首翠風



134.5×105cm

崎井恵風



下谷洋子

〈結ひそめて馴れしたぶさ… (源実朝)〉

68×138cm

〈月彩〉



153×70cm

滝春芳



北村白琉

180×92cm

特集：現代女流書100人展

砂本杏花



〈風荒るる日の寒紅の褪せしまま（花谷和子）〉

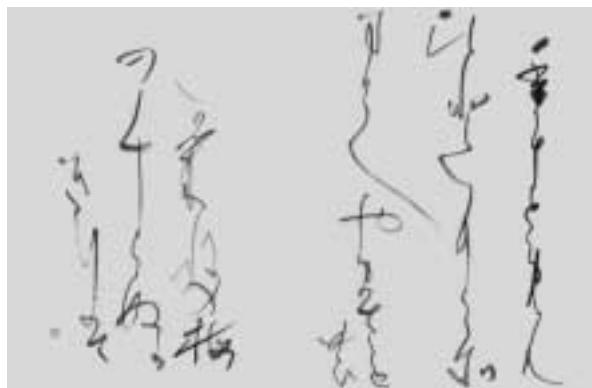
105.5×135cm

〈舞鶴〉



166.5×45.5cm

石井明子



〈香をとめん人にこそ待て…（西行）〉 75×117.5cm

小林琴水



〈秋彩華やぐ古都を歩く…（自作）〉

小池蹊舟

173×82cm

へ笛



小伏小扇

136×106cm

新進作家展

対話

真下京子

木村東舟

平岡千香子

へ
慧

石田春窓

李白詩

高田春来



88×118cm



120×90cm



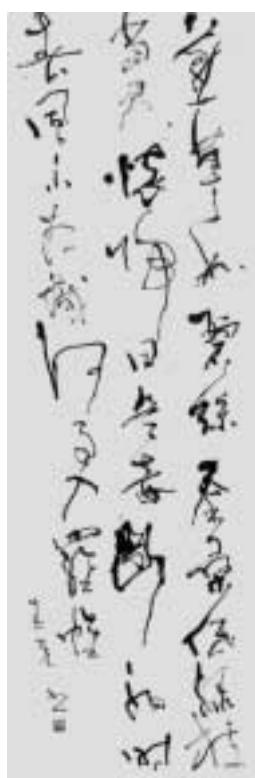
〈わが苑に梅の花散るひさかたの…〉

53.5×172cm



〈イグアスの滝〉

70.5×149cm



166×53cm

大辻
多希子



〈この春はたれかに見せむ… (中君)〉

61×139cm

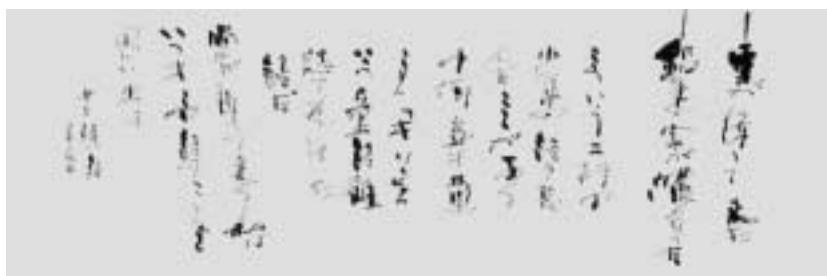
へ
行
く

三森
慧香



121×90cm

熊谷
宗苑

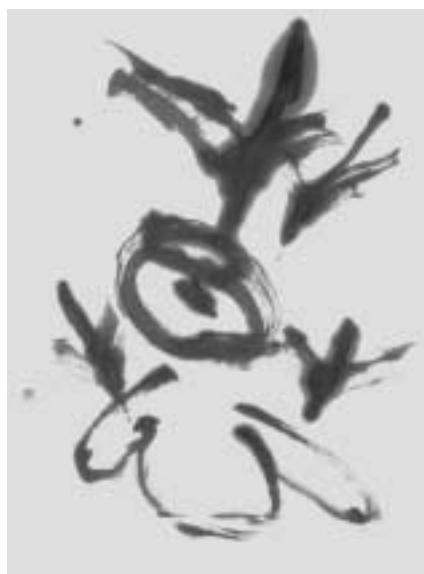


〈一雪が降って来た—鉛筆の字が濃くなった… (井上靖)〉

60.5×182cm

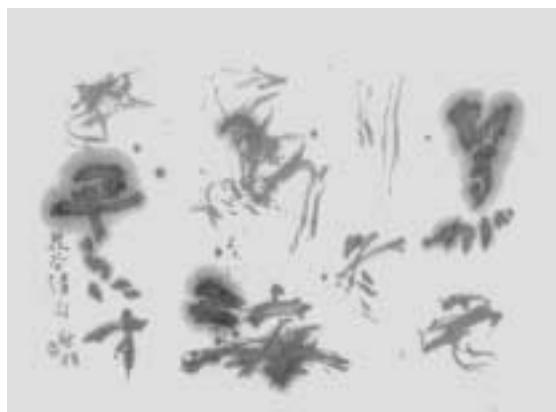
へ
慕
く

萩原
香扇



121.5×92cm

田中
梨梢



〈ひるがえり冬鳥海を平らにす (花谷清)〉

90×120cm

用紙 半紙普通判
||注||

<解説>

この第一通目は、最澄からの手紙の返信。仏法の重要な教義や因縁について討議する為に来訪を促したもの。こうした金蘭の契りに結ばれた空海と最澄

の交誼は、延暦23年（804）3月、入唐した頃に遡ることも考えられるが、帰国後の（812）頃に親交が集中。風信帖は空海の39～40歳頃の筆と推定。遺墨中の白眉といえよう。

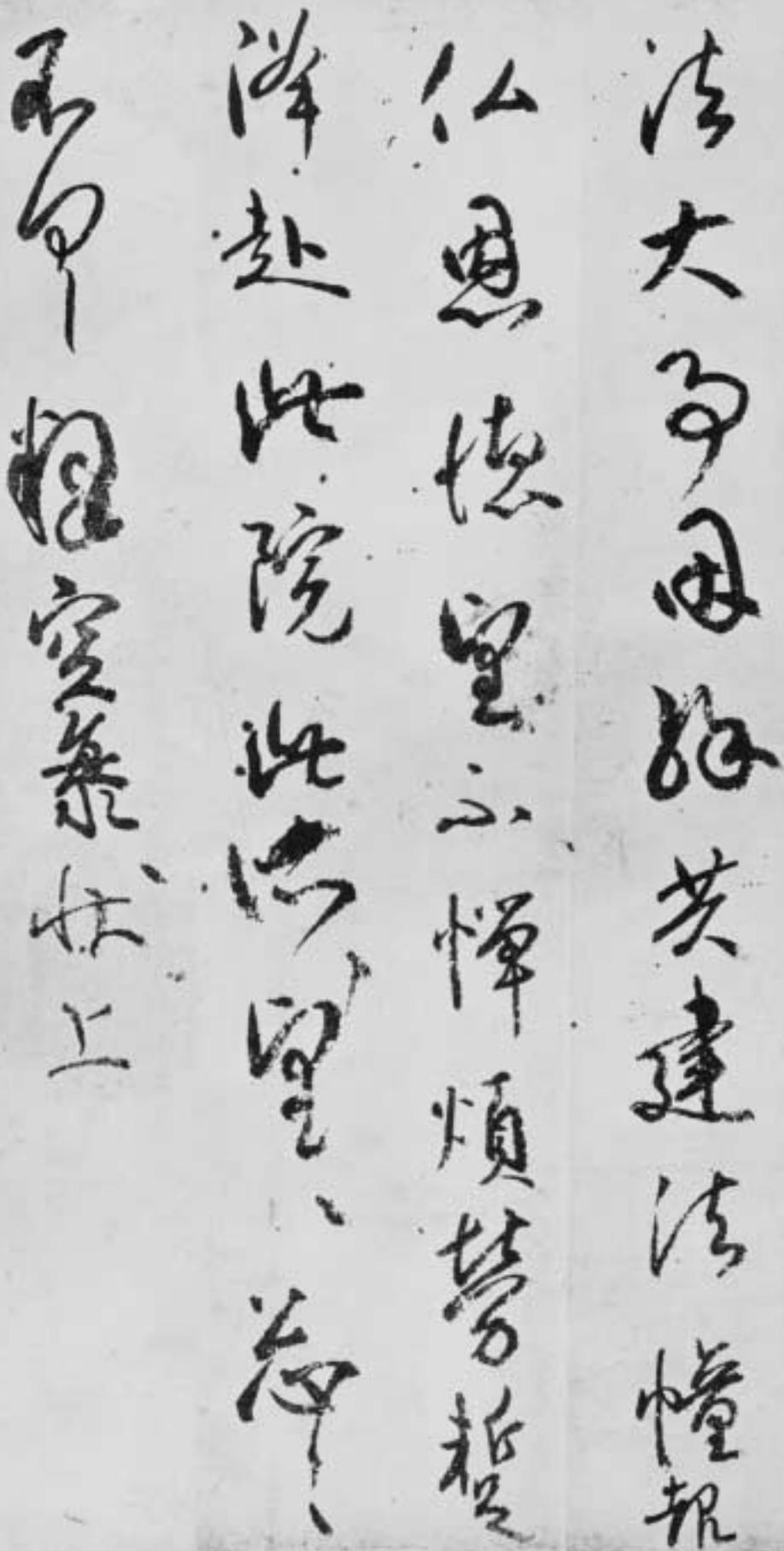
（編集部）

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

○○臨

（押印のみも可）

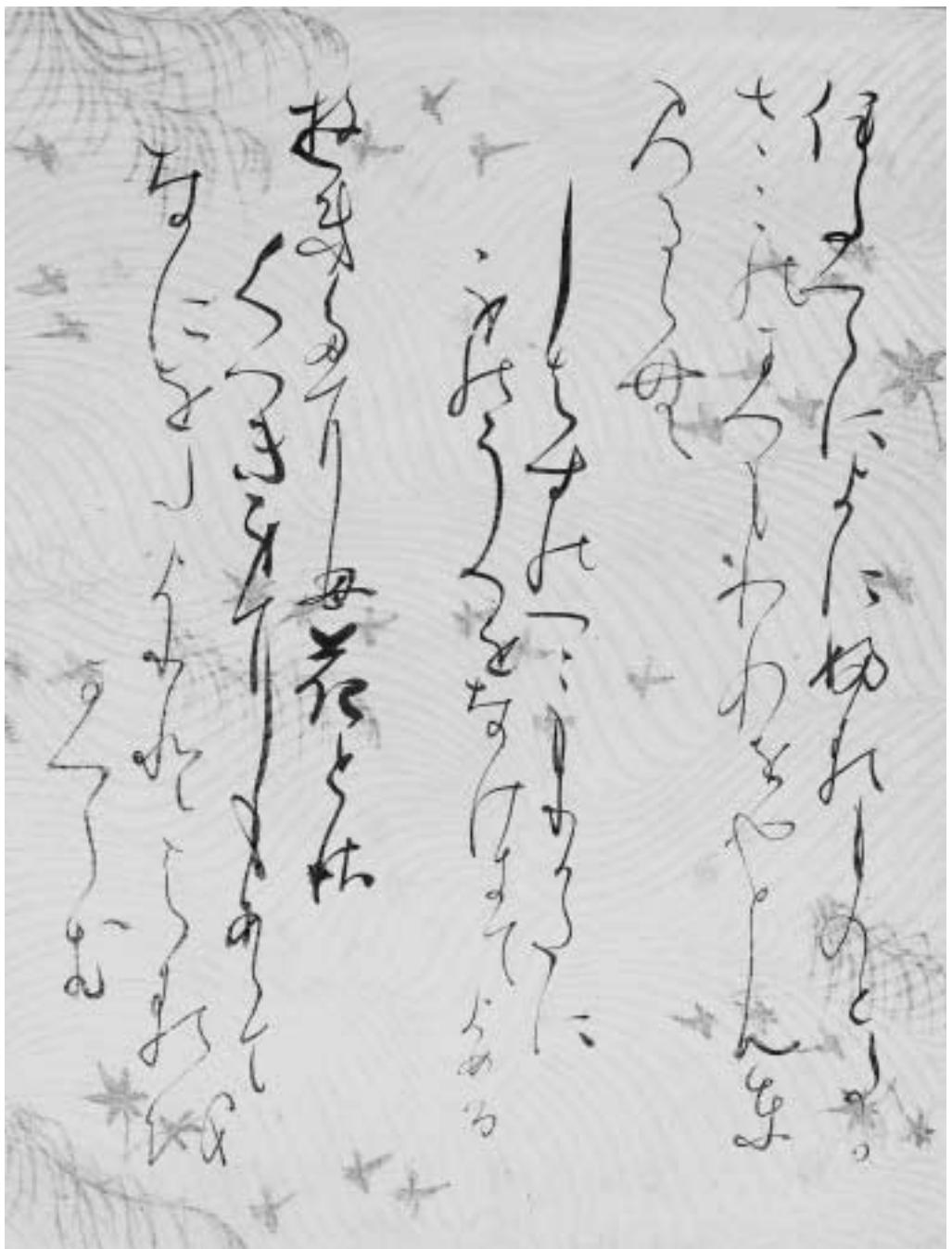


法大事因縁共建法幢報／佛恩德望不憚煩勞。暫／降赴此院此所望所望。念々不具。釋空海狀上。

※左記の掲載歌一首以上を書く
(全臨も可)

用紙
・半紙普通判(料紙可)

※落款を必ず入れる。
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみも可)
(掲載写真縮小90%)



<解説>

今回掲載した貫之集下は、伊勢集と合わせ「石山切」と呼ばれる。本願寺が大阪石山(現在の大坂城の地)に在ったころ、後奈良天皇より証如上人に下賜されたもので、昭和4(1929)年にこの二冊が分割された時、旧地名に因み石山切と命名された。

貫之集下の筆者は藤原定信で、本願寺本の中では筆者が判明しているのは定信のみである。

(編集部)

習い方解説 (六)

西林乘宣

江碧鳥逾白

(江は碧にして鳥逾白く)



江碧鳥逾白 よみ（江は碧にして鳥逾白く）

書体＝自由

錦江の水はふかみどりで、飛ぶ
鳥の姿もいっそう白く見え。〔漢
詩名句辞典〕杜甫絶句の中の一節
最終回となりました。篆・隸・
楷・行・草とやってまいりました
ので、行と草の混じった手本とし
ました。かく五体を参考手本とし
て誌上に載せて、指導者の大部
分は、自分の得意とする書体で書
き直して弟子に与えているようだ
す。この際だから篆書、時には楷
書というように、色々の書体で弟
子向けに手本を書いて頂きたいと
審査の度に感じております。
さて、行書は何十通りもの書き
方があるので、それらの組み合わ
せとなると数字に表せないほどで
す。一字のなかに字形と線の妙を
盛り込むようにしたい。それが文
字数倍の相乗効果を生みます。

習い方解説 (六)

依岡紫峰

知道不惑 淮南子
(道を知れば惑わず)

道理をわきまえていれば迷うことはない。

いつも迷っている私には、とても大切なことばだと受け止めています。

書のみちにおいても、感いのない力をつけていと願っています。担当の最後になりました。感わず精進したい願いを込めた課題です。

「知」 偏と旁の組みたての大小と位置を考えたい

「道」 「」をゆったりと

第一画はやゝ右上りに書き終画でバランスをとるしきのびやかに書いて全体をまとめたい

知道不惑 よみ(道を知れば惑わず)

書体=楷書



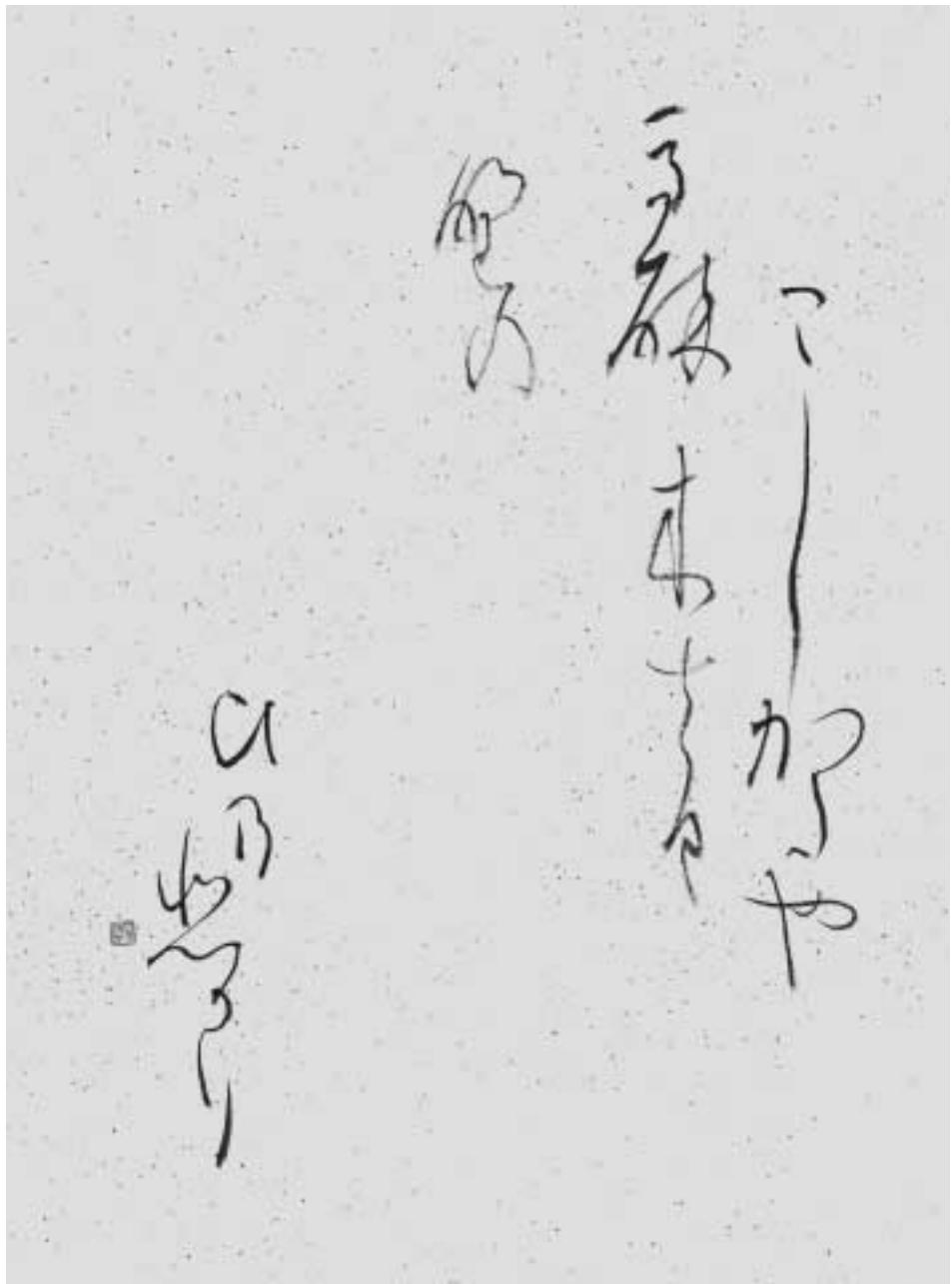
かな規定 初段以上【四月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

山藤美知子選書

習い方解説 (六)

山藤美知子

こしかたや馬酔木さく野のひの
ひかり
(水原秋桜子)



奈良の二月堂を訪れたときの作品。
昔ながらの馬酔木の咲く春の日の
どかな光景が、万葉の時代を懐
古させ、古典的情趣が詠まれてい
ます。

中央から右下と、左上の余白を大
きくとりました。その調和をとる
ために「ひのひかり」は「ひの」
と「ひかり」を分けて少し幅をも
たせました。今回は変体がなを少
しいれています。

筆はいたち面相の少し太めをほと
んど下して書きました。

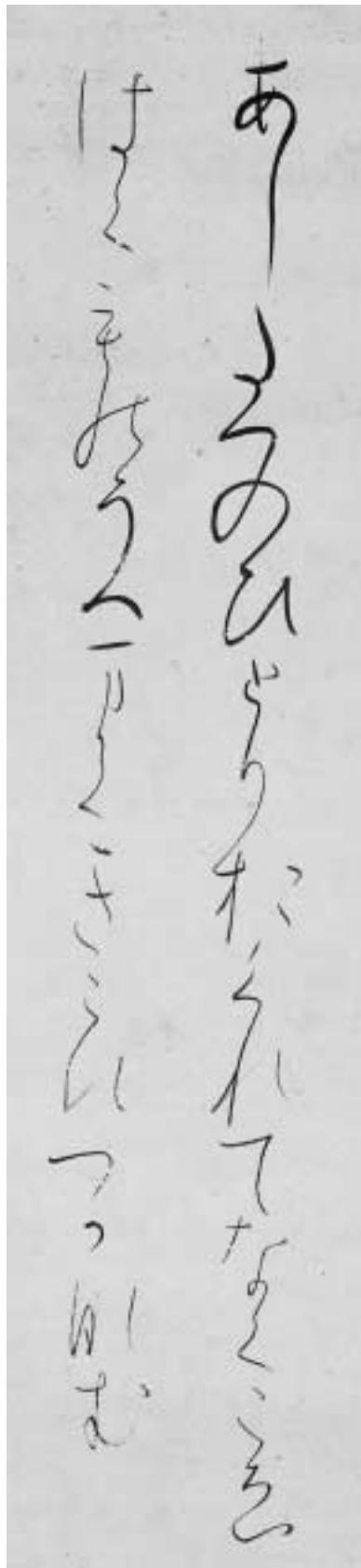
よみ方 こしかた(多)や馬酔木さく(眞)野のひ(比)の(乃)ひ(悲)か(可)り

創作

かな規定 秀級以下【四月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 あした(冬)づのひとりお(於)く(久)れてなく(久)こそ
はく(久)も(毛)(能)うへま(万)で(留)きこえ(江)つが(可)な(那)む

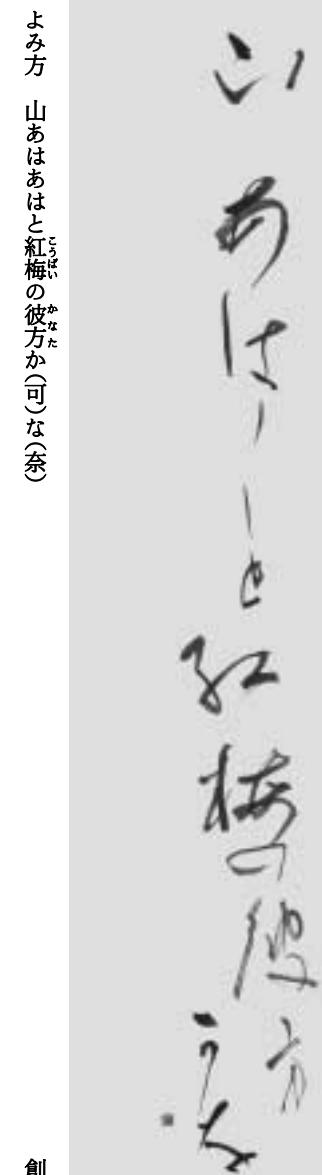
習い方解説 (三)

黒川江偉子選書

黒川 江偉子

山あはあはと紅梅の彼方かな
(飯田龍太)

飯田龍太の句集から採りました。



創作

解説に甲斐国即龍太と書いてあります。その大きい自在な風韻は味わい深く心にしみます。
半切に俳句を書く。殆ど一行の形態が多く、字の大小、墨色の変化それが微妙な行の動きとなつて美しい余白をつくり、面白みのある作品となります。字の形もデフォルメして楽しい作品に挑戦を。

*たて形式に限る

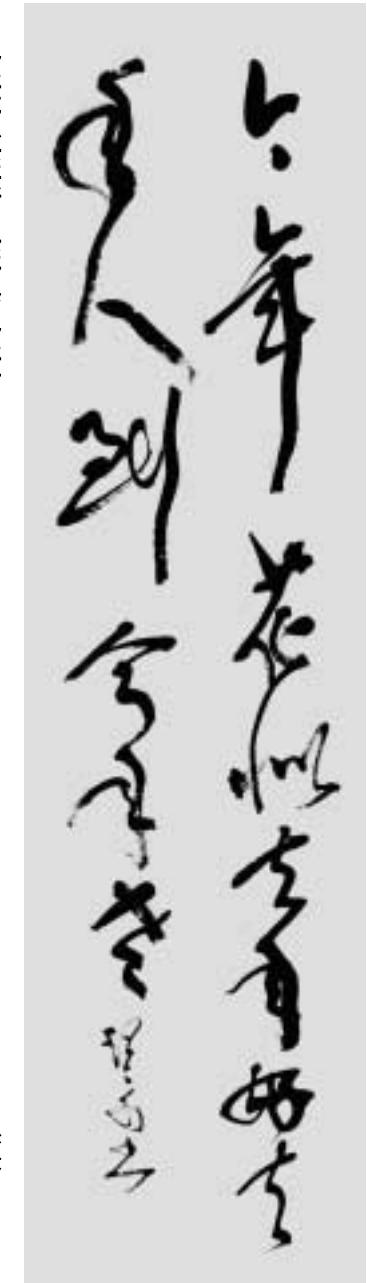
よみ方 山あはあはと紅梅の彼方かな(奈)

漢字条幅規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 (六)

小林琴水



今年、去年と「年」が四回出で
きます。また、横に並ばないよう、
字形とバランスを考えて、動きを
作って行きましょう。「年」は行・
草を上下左右を考えて字形を工夫
してください。

書体＝自由

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

一谷春窓選書

習い方解説 (六)

一谷春窓



一谷春窓選書

習い方解説 (六)

一谷春窓

樹上の鳥声は耳に快よく、僧は落
花を浴びながら花の枝を手折る。

褚法風ですが伸びやかさが足りな
かったような気がします。ふと気
付いた時、途中までが「よく書け
ている」と思った途端に急に緊張
したり萎縮してしまい筆の動きが、
ぎこちなくなり失敗した経験は無
いでしょうか。無心で書きたいも
のですが難しいですね。

書体＝自由

春聲掠耳鳥啼樹 紅雨滿身僧折花
(春声耳を掠め鳥樹に鳴啼き 紅雨身に満ち僧は花を折る)

習い方解説 (六)

安齋映心

結婚ゆび輪はいらないといった
顔を洗うとき、私をさばつけない
ように体を持ち上げるとき、

私がいたくないよう結婚ゆび輪は

いらないといった

風の旅より 香苗書

この担当になって、硬筆書きのもの
により眼が向くようになりました。美
しく書けているものは、漢字は大きめ
に仮名は小さめにして調和がとれ、始
めから終わりまで同じ調子で良く書か
れています。いま日常生活では、硬筆
のほとんどがボールペンという時代に
なりました。ペン書きは大切な生活の
一部となっています。特にペン習字
を学ぶ時間をとらなくても、テレビを
見ながらでもよいから、広告の裏面な
どでも書くようにしてペンに慣れ
ることが大切です。ボールペンの線の出
し方、漢字とかなの調和に心掛け、一
字一字を正確に書くようにしましょう。
ペン字は毛筆に比べて表現の幅はだ
いぶ狭くなり興味も今一つですが、ペ
ン字ならではの良さもあります。美し
いペン字は魅力的です。励みたいもの
ですね。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款を入れ忘れないようにしてください
さい。(落款は自分の名前を入れて
ください)
※文章中の四行田
いたく=痛く 漢字でもよい。

今月の

ホーリー作品 各部総評

No. 572

ペン字部 師範 宇野 華泉
温雅で、ありながら力強く確かな筆致で、この詩の叙情を見事に表現した作品です。

◎ペン字部総評 バランスよく各自の持ち味を生かした豊かな作品が多かった。ただ落款に残念な作あり、細心の注意を。（孝子評）

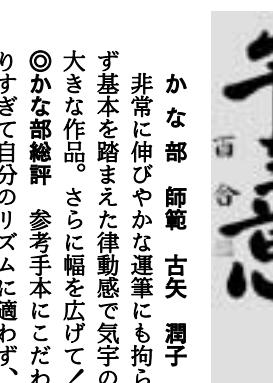
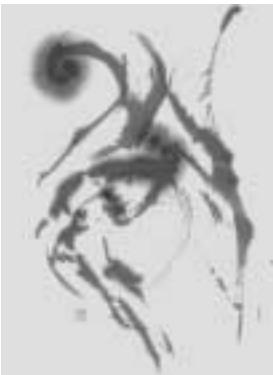
私の首のよしに茎が簡単には折れてしまつた。しかし菜の花はそこから芽を出し花を咲かせた。私もこのソ花と同じ水を飲んでいる。強い茎にならう

華泉書

かな条幅部 師範 天野あい子
かなで、奇を衒わない構成、無理のない筆遣いは飽きない魅力を湛え、墨色と紙色が相まって格調が高い。

◎かな条幅部総評 字が大き過ぎる量过多が目立ち残念。写真版等の作品を参考に研究してください。

変体かなは確かめて！（明子評）



現代詩文書部 特選 馬場 孝子

墨色と構成が、明るく雄大な作品にしている。字のデフォルメも懐広く、紙と墨の融合した作品。

◎現代詩文書部総評 線質、構成などマンネリ化している。もっと自由な表現を期待する。（素雪評）



前衛書部 特選 斎藤 妙邨

全体が美くしく変化に富んでいます。特に一本一本の線にドラマがあり感動する作品です。

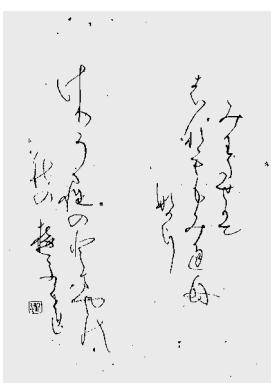
◎前衛書部総評 自分の思いが作品に表現されていますか？ 今後の大作に期待します。（光昭評）

漢字部 師範 高木百合子
濃墨で豊かな線質の顔法楷書、顔法字形はまね易いが、これは書ら配字の工夫、そしてその過程を通して生命感の感じられる個性的な作品を追求したい。（春洋評）

漢字条幅部 師範 松村 秀扁

青淡墨の潤渴を活かし、大胆な運筆で動きある作となつた。懷抱の広さを感じる。印があれば尚。

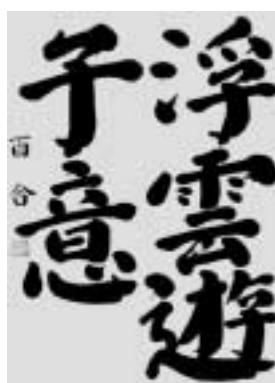
◎漢字条幅部総評 墨色の冴えは濃墨でも淡墨でも同じで、用具の選択も大事だが肝心なのは運筆のリズム。自信を持って書こう。（大雪評）



漢字条幅部 師範 古矢 潤子

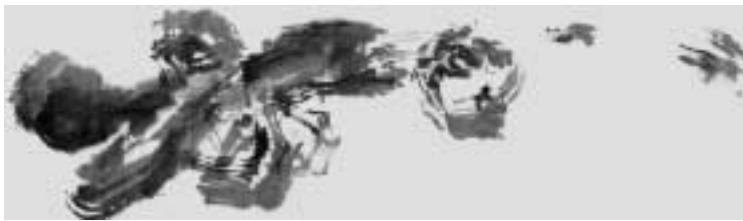
かな部 師範 古矢 潤子
非常に伸びやかな運筆にも拘らず基本を踏まえた律動感で氣宇の大きな作品。さらに幅を広げてノリすぎて自分のリズムに適わず、却って調和を崩す場合があります。

◎かな部総評 参考手本にこだわりすぎて自然な呼吸で書きたい。（洋子評）



今月の

特別研究部 優秀作品（特選）



48×170cm

前衛書

(四谷)三 村 春 景

「混迷」

◆筆の流れを巧みに表現し墨色に大きな動きを与えていた。その動きの中に墨色の変化が必然的に感じるように表現されていて楽しい。

(倫子評)

◆左の起筆部から運動が始まわり、動きが自然で終筆は軽く明るく空間に飛翔する。墨の濃淡と相俟つて楽しい心の軌跡である。

(春洋評)

◆常に深い思索にふける人であろう。沉迷から脱した筆に迷いは感じられない。楽しい制作であったとき思われられます。美しい余白です。

(明子評)

◆左から右への展開が、強い響きから幽かな余韻の世界へと流れ、變化ある作である。筆端の切れがやや鈍いところがあり、次回作を期待。

(大雲評)



安藤華祥書
135×35cm

現代詩文書

〔華祥〕安 藤 華 祥

「雪焼やをんな越後の山の中」

◆半折タテ一行の変化に工夫して巧みなまとめ方、濃墨の潤渴もまた遠近感を持たせる。落ちついた作品となつた。「中」終画やや重い気もある。

(春洋評)

◆筆が動きにいく程の濃墨を巧みに使い、字粒、字間、墨量の変化で、一行に多様な変化を加えて見事です。句が視覚的にとらえられ美しい。

(明子評)

◆超濃墨を柔毫筆で味わい深い表現。中央一行を左右の余白に響かせ、鮮明な作である。渴筆がやや上すべりする感あり、落款部分一考を。

(大雲評)

◆濃い墨をリズム的に表現し、筆の動きに活動を与えていた。近代詩を字の大小をつけるだけでなく、墨のかすれを上手に表現されている。

(倫子評)

岡本太郎は、“美しい”と“綺麗”は、根本的に違うと言っている。簡単に言うと、綺麗とは、様式的に整っているもの、美しいとはその中に驚きを持って伝わってくるものがないと美とは呼べないのだそうだ。太郎の言葉を借りると“なんだこれは”が、美の根本だ。太郎は、あまりにも先端を行きすぎたために批判する者も多かった。

先端を行く者はなかなか時代には受け入れられないが、絶えず周囲に興味を持ち書道以外にも“美”を発見する眼が大切なのだろう。今回は83点（漢12、か19、現28、前22、篆2）未完成でも新しい何かに挑戦している作品を期待する。

(蒼玄)

総評

候補者

| | |
|-------|-------|
| 漢 墓宣 | 現 玄穹 |
| 大雲 霜月 | 尾形 紅霞 |
| 阿部 如月 | 前 四谷 |
| 惠泉 阿部 | 角田 悠香 |
| 山本由美子 | 蓮紅 大友 |
| 佐藤 湘南 | 政江 紅蓉 |
| 詠子 | 政江 紅蓉 |

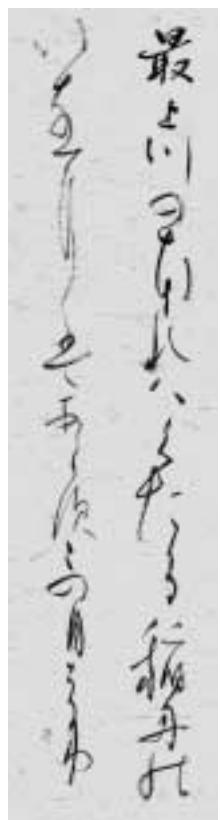
かな (大雲)

佐藤希雲

「最上川
のばれば…」



53×176cm



佐藤希雲書

149×38cm

◆ねらったものを感じさせない作風は他者に模倣を許さない。古い加工紙であろうか、文房四宝との相性をつくづく考えさせられた力作です。

(明子評)

◆半折に短歌一行書は平凡であるが、自然な流れと暢びやかな線質が暖かな雰囲気を醸し出す。安定した筆づかいは技術の高さを物語る。
(大雲評)

◆銀箔が紙面一杯に散らしてある華やかさの中に墨の流れをしつとりと浮かせそこはかとなく雰囲気をかもしてくれる、気持ちのよい作品。
(倫子評)

◆大きな変化はないが料紙と筆墨の相性がよく気持ちよく書いて潤滑の変化も快い。暖かい雰囲気が人柄を思い浮べさせてくれる。
(春洋評)

現代詩文書

(墨縁) 田中扇溪

「霧満ちて陸奥湾の風の聲幽やかに」

◆自作句か。青淡墨の潤渴を大胆に取り入れ、破筆の効果もよく生かされている。大きく広がりある作は、今後の展開を期待させてくれる。
(大雲評)

◆前半はずむのような筆の流れすごいですね。“聲”で一息ついてしまったのでしょうか。後半との流れに差が出てしまい残念、新しく考えて見て。
(倫子評)



180×60cm

漢字 (玄穹) 千葉紅雪

「五風十雨」

千葉紅雪書



180×60cm

◆墨だまりが計算されたように出て来るのは運筆の時の呼吸なのか。筆の動きになやみなく筆と共に呼吸していく私も一緒に体が動くよう。
(倫子評)

◆二×六横書き、鋭いタッチで文字の開閉によって構成する。青墨のにじみやかすれと相まって霧の陸奥湾の風の声が聞こえてくるようだ。
(春洋評)

◆堂々たる作。表現者としてのためらいのなさが生み出す作品は、見る者を豊かにします。絵のような墨の変化は天候にも支えらるか?
(明子評)

◆優しい墨色が大胆な筆致で紙面を支配しながら、一字ずつが懐大きく風をはらんで美しい。改めて字形のよさが詩情を伝える力を感じた。
(明子評)

◆たっぷりと墨を含ませて運筆し、墨を撒きちらす、下部の「雨」が空間を抱いてほっと心なごませて平和である。思い切りのよいねらい。
(春洋評)

◆たっぷりと大らかな表現に魅かれる。上部三文字を思いきり偏平形とし、下部雨に広がりを持たせ、紙面に動きを与えて妙。墨だまりも面白い。(大雲評)

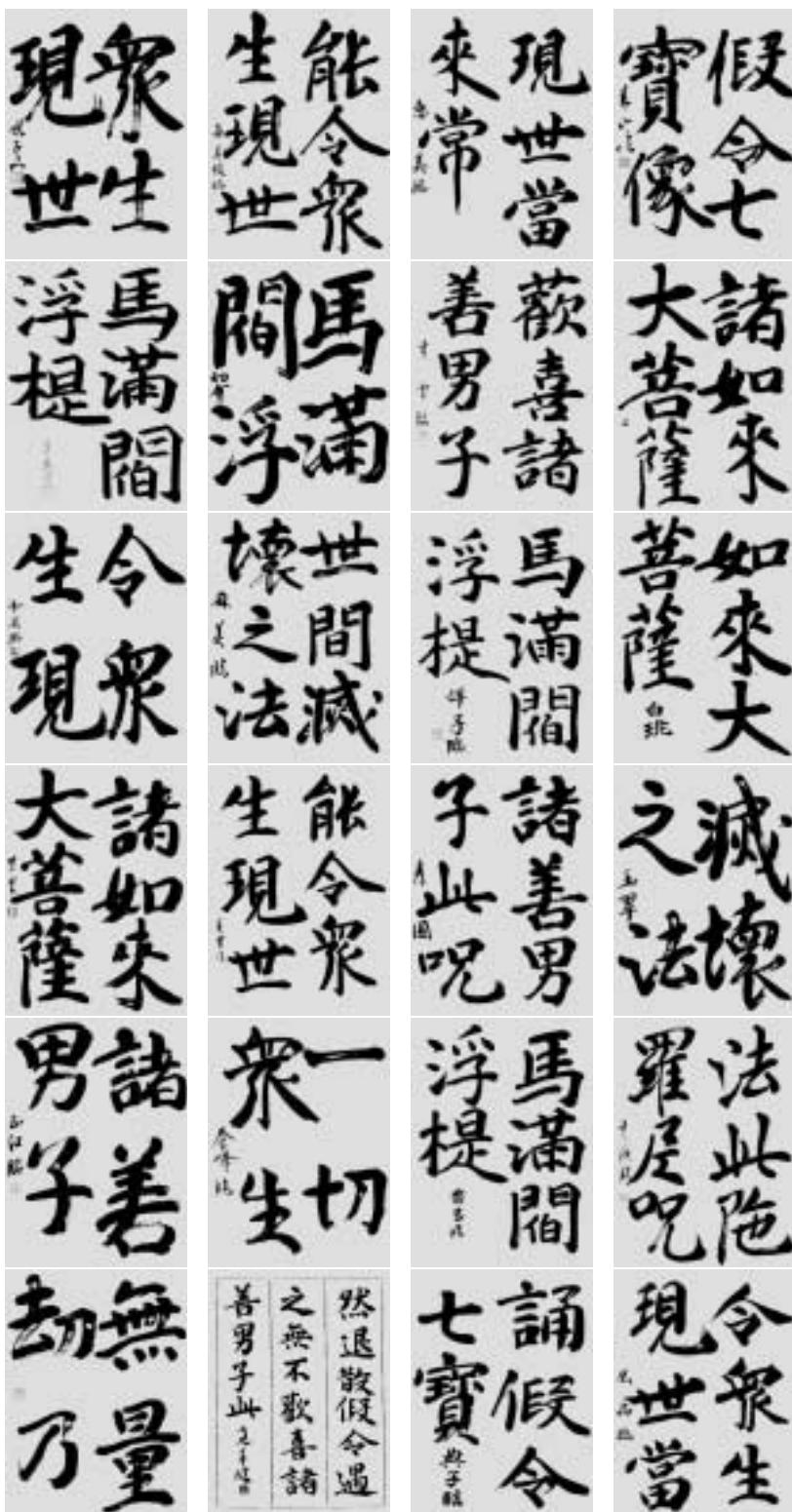
田中扇溪書

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



河野虚拙



蒼正紫和李悦
風江翠美扇子

亮蒼美麻初喜美
子峰豊美香枝

典郁秀洋幸恵
子芭圃子雲美

鳳古玉白翠青
晶塘翠姚江山

◎漢字研究部総評
漢字研究部での学書は、古典の美に直接ふれる。今回は伝橋逸勢の三十帖策子(第

自然で無理のない用筆。線は簡素で、力強くて深い。一見氣楽に書いたように見えるが、原帖の見方がよく、自分のものになっているからだと思う。半紙に対する文字の大きさ、余白のとり方もよく、明るい作品で見事。

二十九帖)。細字で大変ですが、まず簡単な特徴をつかむ。「字形」おおらしさの中に緻密な面もある。「用筆」横画は俯仰がある。左右の払いも獨得で、途中がふくらみ、充実した線になっている。それに強い転折。これらを自分で見付けることが大切。手本に頼り過ぎると、古典のよさを味わうことが出来ません。お一人お一人自信を持っての運筆を。

かな研究部
(藍紙本万葉集)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品

極手利多成勞費煩惱細細疏曉厭厭
身不休身不休身不休身不休身不休身不休
身不休身不休身不休身不休身不休身不休
身不休身不休身不休身不休身不休身不休

宇田川 春 華

◎かな研究部総評

全体によく勉強された成果が見られ、嬉しく拝見しました。一部の作品に墨の薄いものがあり注意してください。形だけでなく全体を学んでください。

かな研究部成績表

かわ研究部 特選 宇田川春雲 創健莊重な手本の書風をよく写し、漢字部分のめりはり、仮名部分のリズム、日頃の練度が運筆に表われ、品格のある見事な作と思います。

| | | |
|--------------------|--|--|
| 前N大華八千八 橋H雲祥街葉街 | 千石大玉A卯 葉舟阪松葉I月 | 五N松紅大正千湘大A大こ書聲正秀選 葉H波瑤阪華葉南雲I阪だ香泉華水春 |
| 碓伊礎安熱足足 井藤貝藤田立助 | 作 田藤田川山藤谷嶋丸本野木田藤田嶋切村合石木部野脇田 | 飯内飯小遠伊新三都坂小鈴德伊村小堀藤河大鈴岡星門守 志 み 寺 |
| 良清華紅万実 弘祐羅祥彩绣枝 | (50首) | 光古惠彩希寿嵐敏どみ京智萩英笑路幸昌智星香照佐美川 彩塘秋草子泉子よりよ芳広峯峯子華子雲子祥楓芳枝子華 |
| 洞書 佳 | 京大石大青詢も千大 橋阪貞阪青扇く葉阪 | 秀紅高大正昌英八竜調千詢昌調蘭正 大様千 水瑠崎阪華苑峰街泉布葉扇応布鼎華”阪江葉 |
| 安藤 作 | 吉松松林野西戸富富寺高須杉神惟佐佐後小河工木木川加小押大大 田本丸佐 村川村田澤溝橋田田野名藤藤々藤林野元村崎瀬野山橋樹 | 理 木美 |
| 楊 (50首) | 佑陽愛白雙陽藤博萩惠悟初香秋萩幸初桂町知雅惠香桃淳優良萩純祐幸 子萩石鈴鶴詢象舟影子江舟子碧子委秀子子子蘭苑子子子光子明江 | |

佐秀百
原水谷
入
坪昌北竹咲覗千稻千椿前遊北泉己も翠湘澄正蘭正明童東童京八東華英高生潮梓広竹大大秀こ土艸千秀書正 大
苑和陸美舟水葉毛葉翠橋雲陸会未く柳南春華鼎華漢泉小泉橋街光祥峰崎大音江島扇雲阪明だ氣玄都明泉華^ハ阪
秋青相
山木澤
遷^{ムシテ}
若吉吉横山宮松細平平春西永中戸近田芹萱末神嶋櫻佐後近古小熊吉北菊菊川河河且大梅白植岩伊石生池
菜田田山本澤重村山井山澤岡田山部池中澤谷棟保 田久藤蘿矢暮野瀬村池田元本岡合賀森原木淵崎藤橋駒田
壽か玉
久よ翠
矩翠四蘭節草翠貴彩榮勝彩悦時尚悦柳吉澄悦直佳称龍節良松蹊昭谷彩欣善杏茱紫星和窓喜虹綺如美洋則知萩萩
子綾子舟子秋景子華子美峰子子子芳惠翠子子子貞子泉春翠二涼雨子高仙仙扇敬萩代祥乃風子子子花溪
樹 千八百皓弘 千硯高稻英や大翠館艸椿大梓大若帝生正四千大信広大書大竜安詢春詢高東た竜 千八石筑生遊こ澄椿竜
原 葉生谷映舟 葉水崎毛峰ま阪吟山玄翠阪江雲葉塚大華谷字阪篤島雲泉阪泉波扇汀扇真総か泉 葉街習桜大雲だ春翠泉
庄志渋篠宍重鹿紫澤佐酒斎齊斎後近小小小小古黒工木君木北北岸神川川京金加小小冲大梅薄岩今今猪猪犬伊石池五飯安浅
司村谷田尸信内雲田々井藤麻藤山森林林城柳藤村島原村川本成本西 塚山田田村闕又谷飼鷹橋十田風見寺佐
裕 木由 か多 ゆ 美みひ風
咏抱愛美谷侑洋煌雙雅惠美早つ喜閑笙か晃芳青竹山等春輝秀 萩行南瑞綱萩龍久江和東久春春貴梨理泰道悦さ尚佳紫代な

(これより2月15日締め切り競書作品の審査結果です。)

今
月
の

ホープ作品

各部総評

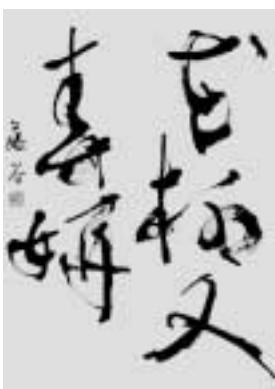
No. 573

漢字部 師範 森田 藤谷

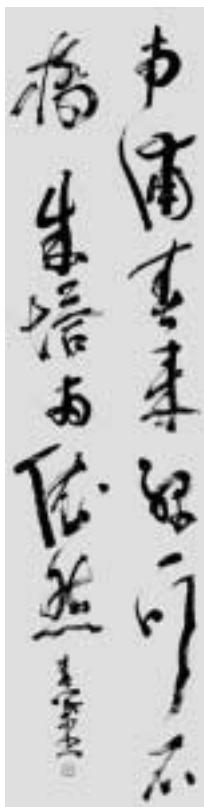
切れ味爽やかな草書作。運筆のリズム軽快で、楽しい雰囲気が伝わってくる。収筆の工夫を望む。

◎漢字部総評 五文字表現の上級者平凡作多し。書体書風の工夫研究を望みたい。楷書も含め基礎力培う努力を常に。

(大雲評)



かな条幅部 師範 都丸みどり
自分のリズムで書くというは
理想ですが難しい。曲直、太細な
ど白らの雰囲気で温か味を出した。
◎かな条幅部総評 変体かなは、
ちょっととした線の方向やタテ画の
位置によって誤字になります。楚
質、禮など十分注意! (洋子評)



前衛書部 特選 渋見由紀子

墨の深みとにじみの調和。造形の動きと余白の白の美しさにひかれた。

◎前衛書部総評 前衛書は作者の心の鏡。心の鍛錬と今を読む感性が大切なのかも。

(蓮紅評)



現代詩文書部 特選 阿部 恵泉

簡潔な線は沈潜し、切れ味もよく、流れも自然である。格調高い余白の美しい作品となっている。

◎現代詩文書部総評 上位作品は意志力がしつかりしていて線の鍛錬度も高く見えたえあり。

(石雲評)

かな部 師範 中井 翠泉
綿密に手本を研究し、句意を汲み、モダンな作品にまとめた力量は見事です。さらに創作の研究を。
◎かな部総評 一部上級者の創意工夫は高度です。全般に、字面を追う余り、句意と離れた表現にならぬ配慮を望みます。(明子評)

◎かな部総評 一部上級者の創意工夫は高度です。全般に、字面を追う余り、句意と離れた表現にならぬ配慮を望みます。(明子評)

◎かな部総評 一部上級者の創意工夫は高度です。全般に、字面を追う余り、句意と離れた表現にならぬ配慮を望みます。(明子評)

ペン字部 師範 沖 佐和子

直と曲、太細の変化、流れと一呼吸置く間合いが美しい筆意を生み出しています。線に緊張感あります。

◎ペン字部総評 行間の余白や字間の粗密に気を使つた作多し。参考手本を見ながらも、そこに独自の主張を加えたいもの。(澄神評)

かな部 師範 中井 翠泉
淡い花は
母の色をして
弱さと悲しみが混り合った
温かな母の
色をして
佐和子書

今月の

特別研究部 優秀作品（特選）

現代詩文書

（一貫）鈴元博貫

「春蝶の…」



53×174cm

かな

(書泉) 田子白嶺

「わが庵は都の…」

◆二×六形式にのびやかに和歌一首を展開する。線の切れにやや不安感があるが、大きな構えで異ジャンルに取り組む姿勢を買つ。

(大雲評)

◆等質の線だが、のびやかに堂々と書き進めて心なごませてくれる作品である。大きな動きが人柄をしおせて存在感のある作品となつた。

(春洋評)



136×70cm

〈特選候補者〉

漢 麗澤 安部 須寿
麗澤 大雲 大隅 晃弘
麗澤 水壑 伊澤 香雨
麗澤 華祥 安藤 華祥
麗澤 白鷺 奥野 佳泉
麗澤 卵月 卵月 前田まさ美
麗澤 新谷 栗原 信子
麗澤 岩崎 岩崎 嵐泉
麗澤 西川 前田まさ美
麗澤 阿部 稲崎 純代
麗澤 清流 浅野 藤象 陽光
麗澤 大雲 大鹿 洋江 充律
麗澤 玄象 彩紅 恵泉 陽光
麗澤 蓮紅 山房 藤象 陽光
麗澤 若葉 工藤 洋江 充律
麗澤 象徳 恵泉 陽光
麗澤 象徳 陽光

総評

芸術の分野では師匠の作風を受け継ぐことが多い。

江戸時代では御家流などと呼ばれ、それ以外は認めない風潮が蔓延し、芸術的な要素は衰退した。形骸だけを求めた作品は、やはり新鮮味に欠け生氣を失うのだろう。（顏真卿の後の柳公權がそうだったように）今の書道界も一見してその会派がわかる程度に久々に新鮮な感概を得た。（洋子評）

◆筆に墨を含ませ速度と体の動きを上手に使って表現している。その為の変化がさらに全体に流れるような感じが表現されていて見ていて楽しい。（倫子評）

◆堂々と自己主張をして逞しい。牧歌的な春の野が目に浮かんでくる。都会的な纖細さの逆を行く親しみを感じさせて楽しい。三行目重いか。（春洋評）

◆たっぷりと豊かな筆致で三行構成を安定させている。三行目がやや鈍くなり惜しまれるが、拡張感のある作風をさらに追求してほしい。（大雲評）

今日は82点（漢21、か15、現25、前20、篆1）なかなか100点のハーフドルは高いようであるが出品していない社中の奮起を期待する。

（蒼玄）

鈴元博貫書

(春洋評)

◆等質の線だが、のびやかに堂々と書き進めて心なごませてくれる作品である。大きな動きが人柄をしおせて存在感のある作品となつた。

(春洋評)

現代詩文書

(大雲) 長島 僊雨

「坂村真民の詩」



長島僊雨書

112×84cm

◆白い紙に対しして体当たりの書き振りに好感を持つ。ここから新しい自分を発見できるのではないか。「書いて見る」のくり返ししかない。
（春洋評）
◆二本組筆か。たっぷりとした質感ある潤筆部と破筆の調和で、平な印象を受ける。字形の工夫をさらに。
（大雲評）

◆雄壯な動きで構え大きく筆を走らせる様子が目に映るようですが、言葉に合った表現にも惹かれます。但、落款にもセンスを磨いて欲しい。（洋子評）

◆筆と一緒に詩の流れを表現し紙面一杯に活躍している。本文の活躍している空気に対しても落款の雰囲気が一致しない感がありますが如何？（倫子評）

（洋子評）
（倫子評）

◆自分の口頭の動きが作品に表現されてしる為か見ていて、著は重荷を感じさせない。大きな紙面に対すると体と動きは一緒にないと……。（倫子訳）

一 條 紅 蕭

「二氣」



174×52cm

一條紅肅書

◆いつもながら作品作りの上手な人だと感心する。実際に楽しげに、あたかも軽音楽を演奏しているかのようで、明るさと爽やかさがいい。（大雲評）

◆飄々とした中にリズムを埋め込み、
芸術院の漢字表現はないユニークさ
で目を引いた。小字ながら線の多様さ
は幅広い勉強の賜か？（洋子評）

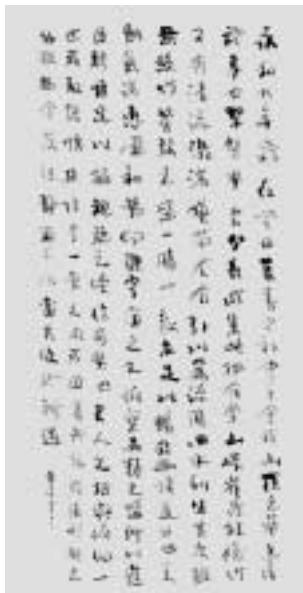
◆法帖で親しんでいた句を実際に楽しい雰囲気に表現して楽しい気持ちにしてくれた。墨つきも大きな紙面をあきないうように変化がついている。(論述評)

◆筆先のはじきを利かせて、自然なりズムの中に潤渴の変化を生んで明るくまとめた。言葉は王羲之だが詩情豊かで、爽やかな作となつた。(春洋評)

漢字
(炎佳)

佐藤華炎

「蘭亭序」



佐藤華炎書

136×70cm

◆落筆してから六尺を書きおろす。自分のリズムで、自分の体に筆を托す。上部の墨だまりから、かすれて終筆まで紅蕭の心を定着させた。
（春洋評）

◆大胆な動きにまず眼を奪われる。独特の潤渴がリズムを醸し出している。墨色をさらに研究されたら如何。

印の位置平凡かな。
（大雲評）

◆前衛の中で、構図、動き、墨の変化から落款の位置に至るまで、高度な視点からの制作態度に敬服しました。一氣呵成の流れに息をのむ。

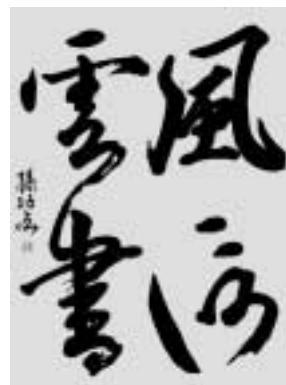
（洋子評）

われる。独特の潤滑がリズ
とさらに研究されたら如何。

漢字研究部
(風信帖)

選評 村野大仙

今月のホープ作品



荒木孫功

漢字研究部 特選 荒木 孫功
終始氣力充実、内向する筆力がじんわりと
表面に現出する様で、静かな落ちつきある作
となった。原本を注意深く見つめておられる
様ですが、「書」の字の一画・二画目の表現
今一息でした。調和も乱しています。

◎漢字研究部総評

三通の書状中一通目のこの風信帖は、他の
二通に比して丁重な書きぶりが目立ち謹厳な

趣がある。これを臨するに当たってはそれなりの構えが必要であろう。大変粗雑な書きぶりの作が目にとまり残念に思いました。格調の高さにおいて最高級の傑作と言われるこの風信帖、心して丁寧に学びたいものである。また骨格のしつかりした力強い風格も見逃すことなく、感性を磨き、用筆を学びとつて下さい。



悦青卿翠郁靜
子霞舟江子子

春聰翠節太佑
葉苑葉子無朋

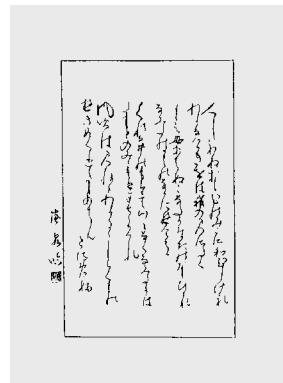
百岳青香聲華
百合子峰山蓮香祥

眞嵐翠祥美直
理泉汀風子子

か な 研 究 部
(石山切)

選評 朝倉春江

今月のホープ作品



新 谷 巍 泉

◎かな研究部総評

日頃、書きなれない書風のためか、やや粗雑な作品が見受けられました。リズムをつけたり変化を出したりするための条件を考えて反復練習を重ねましょう。

特選 かな研究部成績表

| かなる研究部成績表 | | 特選 | 評 |
|--|----|--|--|
| 竜大こ華 | 八竜 | 竜高石京N竜N玉書五や京大蘭大昌A華翠広五竜京秀卯 | ない書風のためか、やや粗雑な作 |
| 泉雲だ祥 | 街泉 | 泉崎習橋H泉H松泉葉ま橋阪鼎雲苑I祥柳島葉泉橋峰月 | じり出るようなりズムと、細く軽 |
| 秀 | | | こした仕上りは見ごとです。速筆 |
| 今礎五安熟足浅 | 作 | 後北松堀伊高坂橋岡戸齋近徳川川吉藤熊近熊森森吉河新 | 件を考えて反復練習を重ねましょ |
| 村貝十藤田助川 | | 藤村丸川藤橋本部来藤藤田崎西田村野池谷田田連谷 | かな研究部特選 |
| 嵐 | | | かの文字の表現はとても新鮮です。 |
| 貴清佳華紅実みな | 作 | 知欣愛魯良雅み紅照益つ松萩優瑞翠昌谷柳賈陸龍佑明鳳 | |
| 泉耀栄祥彩枝江 | | 子子石春佑泉よ霞芳江え春峯子雲綾子涼芳蘭子博子翠泉 | |
| 文筆佳 | | 秀華五稻大玄前八五も玉卯湘竜五治八玉昌八大書竜大八湘英彩童竹華こA 峰祥葉毛雲翠橋街葉く葉月南泉葉田生松苑街雲泉阪街南峰 泉扇祥だI | |
| 青木作 | | 渡山真細福日春羽都戸遠津田高高鳥篠塩佐佐鷺坂後後古小吉岸木河加梅生 | 新谷 |
| (50) 知子 | タク | 辺崎庭村川比山成丸部山田中山橋本田澤藤々々山口藤藤矢嶋瀬田内岡藤原方志 | 嵐 |
| 信桜貴和湖勝紅ど悦希幸吉花正美美初町佐し良泉子翠子雨子龍扇芳祥子 | | 木美多野由 | |
| 溪江ミ子香舟美楓り子子子惠泉子子子紅香華子子子 | | 信子 | |
| 大秀高高雲水岐陵入 | | 北竹松春硯正千大正大正も北千己石秀紅喜童長八大千八高澄梓東正四梓大 | 大福秀こ東前桂正書八正岬大 |
| 朝青青會倉木木木江 | 運 | 葉阪華雲華く陸字未舟水瑠璃泉月街阪葉雲崎春江光華谷江雲 | 阪山明だ総橋月華泉街華玄阪 |
| 爽か理勇陽よ子介 | | 吉山茂宮富宮松松松堀星西西永中内富寺高鈴鉢杉菅神渋七酒齋古小木北川楓目小岡大大薄碓井伊伊石石飯田村木野澤崎田重佐岡切野川岡守山藤澤澤木木浦野野谷條井藤城暮原村元川賀野本森石田井野藤藤渡橋坂田 | |
| 紅椿樹明瑠翠原漢 | | 四炎翠草愛藍翠白律幸佐藤悦尚古悟悟合史利菊八萩愛裕恵翠青昭輝秀茱絃窓萩真喜星春玉英則翠知恵蕙子秀芳枝秋美華景鈴子雲枝象子薰子塘子子子子枝重碧華美子香花二子子仙苑萩光峰代祥綠弘香子子径子子 | |
| 鈴助庄社志嶋柴紫佐佐佐斎齊後後小小小小上工木君木岸川河龜神香加鹿小押冲小大大大内白上字岩岩岩伊生飯新足東木川司本村 | | 明硯千春硯東稲英三宮館大椿調こ書若調生四大広大艸千華正青松大春桂高筑上石土英澄千た秀高A大澄も千京漢水葉光水小毛峰鷹城山阪翠布だ徑葉布大谷阪島雲玄葉祥華峰波阪汀月陵桜泉習氣峰春都が明真I阪春く葉樺雲々久藤藤藤山林林島坂藤村島原本本合井谷味瀬島野山川野西沢田井原井淵田崎上藤駒薦井立 | |
| 智榮咏三抱称翠華雅節美早祥敬笙史晃雅み泰山淳春尚萩南和紫雲祥良裕京純と輝礼一淑皓縫岳楠美春洋都寿萩紫藤万花広子艸和舟子泉月学芳子苗子子洋江代子子房子翠子茜汀敬風卿香子子芳子子峯子美江泉乃峰麗子燈子子花苑雪琇子 | | 寺佐ふ | |
| 遷春戸戸帝霜已高秀玉紅右生千艸春外汀だ出塚月未陵峰川苑田大葉玄月 | | 大幕澄山有秀土千大秀東土高遊澄清正艸玄千江大正華春佑己春や有秀藤阪張春王秋水氣葉阪水向氣陵雲春雪華玄翠葉龍雲華翠汀希未汀ま秋水 | 澄有東紅春秋岳瑤 |
| 名吉吉横湯山山柳谷茂村村村宮三松松増前福福平平比花昌野丹西浪長永中中戸鶴積知玉田田館辰田武高高芹瀬砂須氏原野田井本根田堀知木田田田川嶋本島田島山山田里山崎羽澤川島井澤井村田田念木原中野本玉山橋野澤田川田名三 | | 205 | 名正桂明政美真萩笑珠春敏陽翠華代キ歌優代才智芝愛恵彩秋一宏雅翠博恵雅律恵恵梢津光哲芳初昌杏澄芳琉 |
| 格技紀正桂美明政美真萩笑珠春敏陽翠華代キ歌優代才智芝愛恵彩秋一宏雅翠博恵雅律恵恵梢津光哲芳初昌杏澄芳琉 | | 子祥子江月子子翠子蘭堂満華風蓮子萩舟秀子子子子華子子香菜子峰花水枝子泉舟子雲子葉子翠子子枝江蘭華翠美華舟 | |